

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年6月24日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103946
法人名	株式会社 ショコラ
事業所名	グループホームショコラうすき
所在地	鹿児島県鹿児島市宇宿7丁目14番3号 (電話)
自己評価作成日	西暦2016年5月28日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成28年6月17日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、宇宿の閑静な住宅地に立地しており、すぐ近くに医療機関やスーパーなどがあり、利用者に恵まれた環境の中にあります。ショコラグループとして、グループホームショコラながかり、小規模多機能ホーム、共同託児所ぷちショコラ、かごしまショコラ保育園、しょこらクリニックの事業も行っております。同施設内に共同託児所ぷちショコラが併設しており、子供たちとの交流を取り入れる中で、ご利用者様の日常生活に活力をもたらし、生きがいや心の充実に繋がる環境作りに取り組んでおります。また「今日が最後の日」と言う気持ちで、一日でも長く楽しいひと時を過ごしていただけるよう、スタッフ一同で日々努力しております。ご利用者様とご家族様との絆や関係作りを大切に、より良い時間の提供を行っております。また、施設内での生活を良く分って頂けるように、日々の様子を写真やビデオを写し、ご家族に閲覧して頂いたり、ショコラ便り(事業所新聞)に添えて配布したりしております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは法人が展開する「ショコラ」グループの一つとして1丁目、2丁目の2ユニットで開設されており12年の年月を経ている。「ショコラ」とはラテン語で人が集う・人が集まるという意味合いを持って付けられており、由来の通り、同ビル内には法人のデイサービスと託児所も併設されており、日中はデイサービスの利用者との交流や、ひ孫世代、送迎時の若い親世代達との幅広い年代層と触れ合う集いの場にもなっている。入居者は日々、活気のある環境で生き生きとした生活を送っている。

管理栄養士の指導のもとカロリー配分を綿密にグラフ化し、栄養管理が徹底されている。職員は男女を問わず、持てる力量を発揮し、個々に応じた形態で食感や視覚にも配慮しながら素材を活かした家庭的な料理を提供している。

重度化や終末期に向けた取り組みにも力を入れており、これまでにホームでの看取りも多数、経験している。現時点でも8割近くの利用者がホームを「終の棲家」として、希望しており、段階に応じ再確認を行いながら、安心して希望する最期を迎えられるように最大限の支援に取り組んでいる。

職員は新人からベテランまでキャリアや年齢層も幅広く、管理者、職員間のコミュニケーションも良好に保たれている。資格取得に取り組む職員もおり、研修の強化を図り、一丸となって理念に添った質の高いサービス提供に向け、日々努力をしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念の見直しは毎年職員全員で行いグループホーム入口に掲示している。毎朝朝礼で理念に基づく経営方針を盛り込んだ「行動手帳」を唱和し互いに意識づけあいケアにつながる理念の実践に取り組んでいる。	1丁目、2丁目各ユニット毎に独自の理念を掲げている。更に細かく毎月の目標を立て、ケアの振り返りと評価を行っており、職員と管理者は意思統一を図り、理念に繋がるケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会の行事へは、職員だけではなく可能な限り入居者様も一緒に参加し地域住民との交流を図っている。(夏祭り・敬老会等) 向陽小学校の職場体験やサマーボランティアの受け入れなども行っている。	町内会加入や運営推進を活用し地域との情報交換を行っている。地域行事への参加や体験学習、ボランティア慰問なども受け入れ積極的に交流を図っている。散歩時の気軽な挨拶や、季節の花の差入れなどもあり、日常的に親交を深めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の町内会の話し合いに参加したり、日常的に地域住民と交流することで、情報提供や情報収集しやすい状況づくりに努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様に対しては年2回のアンケートや調査を実施しているが、回答しやすいように無記名での回答とし、返信用封筒を同封している。頂いた意見については、家族会や運営推進会議にて話し合い、改善を図っている。	日曜日の開催にしており、多数の家族参加を得られている。ホームの現状や家族アンケートの結果報告等を行い、助言や提案などをサービスの質向上に繋げている。マンネリ化傾向にあり、今後、出席者や会議内容の検討も視野に入れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会合などの案内がある場合は、積極的に参加している。また、ホームページ等閲覧し、サービスの向上に努めている。	担当窓口には定期的に出向きホームの現状報告や相談を行い助言を得ている。相互で情報交換を行いながら良好な協力関係が築けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止の研修を行っている。研修を通して身体拘束に対して理解している。施設施錠は日中はしていないが、20時以降は防犯のため施錠している。	管理者は日常のケアの中での気付きは、都度注意を促し、職員全員が、禁止の対象となる具体的な行為や言葉使いを正しく理解できるように教育している。定期的な研修も行っており、職員は身体拘束の弊害を深く理解し、連携と見守りで抑制のない自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内定期研修にて高齢者虐待関連法を学ぶ機会を盛り込み、職員全員で学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内定期研修にて地域福祉擁護事業や成年後見制度を学ぶ機会を盛り込み、職員全員で学んでいる。入居者様で必要な方には、それらを活用できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な説明を行い、不安や疑問点が無くなり、納得をした上で契約に関する行為を進めるように留意している。</p>		
お	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の生活の中で入居者様と対話する機会を設けるように心がけ、自然な形で入居者の思いを引き出せるよう努めている。また、年2回ご家族様へアンケートを実施している。</p>	<p>年2回の家族会や無記名式のアンケートを行うなど、機会を設けては意見要望の収集に努めている。普段は面会時や電話連絡、毎月の通信で現状の詳しい報告を行っており家族との信頼関係を築いている。出された意見、要望、苦情等はその都度、検討し改善に繋げサービス向上を図っている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>年2回職員が会社を紙面で評価する機会、そして面談にて意見を聞く機会を設けている。</p>	<p>朝夕の申し送りや毎月のミーティング等で、現場での気付きや意見、要望を出し合いサービスの質向上、運営に活ける様に取り組んでいる。管理者は、新人教育や職員間の情報共有の強化にも今後、益々、力を入れていく意向である。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>毎日必ず職場へ足を運び、状況を把握している。職員とのコミュニケーションも取れている。給与は資格だけを考慮して決めるのではなく、職員本人の努力や、実績、勤務状況、他職員からの評価を考慮したうえで決める体制にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>会社が立てている年間計画を基に、毎月定期研修や勉強会が行われている。さらに、ケアの質の向上を目指して、スタッフ向けのスキルアップ勉強会を月に2回行っている。新人職員には、主任が中心となって育成する体制をとっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者・職員との研修会、食事会の機会を設けるなどして意見や要望を伝えたり、相談しやすい環境作りを心がけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前に必ず見学、スタッフの訪問を行うようにしている。その上で、本人に納得して入居してもらい、本人の不安や要望を良く聞くようにし受けとめる努力をしている。また他の介護保険サービスの説明をするように心がけている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族等にも上記同様、納得してもらったうえで利用してもらえよう十分な話し合いに心がけている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人にとって、今一番必要な支援の方法を考え、対応に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人の好きなこと、得意なことを引き出し、長年の技や知恵などを教わるなどして、本人の人格を尊重しながら過ごすよう配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来訪した際は、本人の状況報告を行っている。また、日々の様子を知ってもらえるように「ショコラ便り」にお手紙と写真を添えて定期的にお知らせしたり、電話連絡を行っている。本人と家族にも参加していただくことで、本人と家族のよき関係が保てるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族などに行事の案内（外出レクレーション・誕生日会）をして、出来るだけ馴染みのある方々に参加していただけるように提案している。	地元出身の利用者もおり、近所の親戚が面会に来たりしている。同ビル内のデイサービス利用者とも顔馴染みが多く交流を重ねている。個別支援や家族の協力を得ながら、自宅に帰ったり、美容室や墓参りなどに出かけ、馴染みの人や場との関係継続の維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や関係性等に配慮し心地よい時間を過ごしていただけるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時の情報や、またその後も必要な方には継続的な支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「その方らしい生き方」を中心に考え、介護者の自己満足にならないケアを心がけている。	意志表示の可能な利用者も半数近くいるが、困難な場合は日常の関わりの中で、表情や所作を観察し思いの汲み取りに努めている。職員間で共有し、自己決定に導けるように本人本位の対応を心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、家族や前施設から情報を収集し、状況を把握できるように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼時の申し送りや定期的にミーティングを行う中で、入居者様の状態を話し合い、今後のより良いケアについて検討している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を重視し、また担当者会議の中でも職員も意見を出し合いながら、入居者様本位の介護計画の作成を心がけている。	利用者及び家族の意向を踏まえ、利用者主体の暮らしぶりを反映した介護計画を作成している。要望や状態変化に応じ都度見直しを行い、現状に即した介護計画になる様に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアについては、個別サービスの記録より、状態の変化を継続的に見ることができる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	建物内に通いや同施設近隣に小規模多機能施設も備えており、在宅復帰後も慣れた空間を継続的に利用できるようにしている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者・地域消防施設隊員を交えての消防訓練を年2回行っている。地域ボランティアによってイベント等にさんかしてもらい、楽器演奏や踊りを行って、地域に開けた施設を目指している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を第一に、かかりつけ医の選択を行っている。退院は家族も同行を基本としているが、必要時には家族の了承のもとで職員が同行している。	希望のかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関とは24時間体制の連携が図られており、安心な環境にある。月2回の訪問診療や随時の往診なども含め、看護職員も配置されており、利用者の健康管理は日常的に密に行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員が利用者全員について把握できるような勤務体制、また他介護職員からの相談に乗れるような環境作りに努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>協力医療機関との連携を図り緊急時すぐに受け入れ体制を整えてもらえるようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合などの対応については、本人や家族からの希望を第一に考え、事業所内でも「緊急時の対応及び看取りに関する方針」において方針を定めてる。</p>	<p>これまでに多数の看取り経験もあり、ホームを「終の棲家」に希望する利用者が現在も8割程度いる。重度化した場合におけるホームの指針を定め入居時に説明し、同意を得ている。状態変化に伴い家族へ再確認を行いながら、方向性を共有し希望に沿った最期を迎えられるように最大限の支援に取り組んでいる。経験の浅い、新人職員の看取り教育にも力を入れている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急手当や初期対応の訓練を施設内で研修を行っている。また、消防署が開催している普通救命講習を受講している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回行われる消防訓練において様々な状況を想定しての訓練委取り組んでいる。地域の方々とは日頃からおつきあいを大事にして緊急時には協力を得られるように働きかけている。</p>	<p>消防署立ち合いの定期訓練を年2回行っている。具体的な避難策を昼夜通して検討し、確実な避難誘導が行えるように備えている。今後も、近隣住民との協力体制作りに向けた取り組みを継続する意向である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の人権を尊重する言葉かけや対応を行っている。	日常の暮らしの中で、丁寧な声掛けや対応をして利用者の誇りやプライバシーを損ねないように努めている。羞恥心を伴う対応には十分な配慮をし、尊厳を重視した支援を常に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を第一とするために、普段から対話をして思いを引き出すような環境づくりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操・公文式等一日の流れを作りながら、入居者様本人の希望やペースで参加できるようにし、職員本意のケアにならないように注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ホームへの出張カットを利用したり、行きつけの美容室へご家族と一緒にいたり、本人及びご家族の希望に沿った方針で支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の誕生日、行事には特別メニューを設けている。食事について興味を持ってもらえるよう、盛り付けや配膳、片付けを一緒に行っている。	管理栄養士の指導のもと、綿密な栄養管理を行い、出汁などの素材の味を活かした家庭的な食事である。個別の形態で食事が負担にならない様に工夫している。誕生日や行事には多彩な特別食を提供し、バイキング方式や外食など、目先を変え変化を持たせている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は管理栄養士にてカロリー計算されており、摂取量の記録と週1回の体重測定を実施している。また、入居者様の嚥下状態に合わせて食事形態の工夫や、介護食品も取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。歯科衛生士の職員により口腔指導を行い、一人一人にあったケアをしている。また、必要に応じて歯科往診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、現状により、オムツの検討も行い、本人に気持ち良く排泄してもらえるように支援している。	職員は個々の排泄パターンやサインを把握し、早めの声掛けや誘導でトイレでの自立に向けた排泄支援を実践している。入居後に改善がみられる利用者も多く結果を出している。業者を招き、オムツの使い分けや当て方などの講習会を開く事もあり、全員でケアの統一を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の状態や量を記録し、排便状況を把握している。水分摂取の促しや散歩の実施（雨天時は室内にて歩行や階段昇降）や腹部マッサージ、またアルカリイオン水の飲用や食物繊維を積極的に取り入れるなどして、極力、薬に頼らないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的に月水土は決まっているが、その他でも本人の希望があれば入浴可能である。必要に応じて、足浴・手浴・清拭も実施している。	一番風呂を希望する利用者もおり、曜日や時間帯も柔軟に対応している。湯船も広々としており、気の合う利用者同士と一緒に入浴することもある。職員の手厚い見守りで安心して安全な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や身体状況を把握し、お昼寝が習慣の入居者様にはゆっくりしていただける空間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書きを入居者様ごとに個人ファイルへ添付している。また薬の内容が変わったときは、その都度申し送りし、職員全員が入居者様の变化に気づけるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の盛り付けや片づけ、洗濯や掃除など、それぞれ役割を持って行っている。園芸や裁縫等の趣味を取り入れ、日常生活を楽しめるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日などには、気分転換や体力づくりも兼ねて、一緒に外へ出る機会をできるだけ多く作るようにしている。年間行事計画を立て、外出レクに入居者様やご家族様と出かけられるように支援している。	初詣や花見、ホームの運動会や夏祭りなど季節に応じた外出計画を立て身体状況を考慮しながらも全員が外出の機会を多く持てるように努力をしている。個別にバラ園や水族館などに出かける事もあり、家族も同行して共に楽しんでいる。ホーム周辺の散歩や外気浴は日常的であり、短時間でもストレス発散や五感の刺激を得られる機会にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居時に本人・家族と話し合い、それぞれの利用者力量、希望に応じて支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>贈り物があった時に本人からお電話するようにしたり、また季節のお便り（暑中お見舞い・年賀状）を書く機会を設けている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>プライバシーに配慮することはもちろん、飾りつけやお花を飾ったりして、入居者様に季節を感じてもらえるようにしている。洗い物をするときなどは、できるだけ入居者様に不快感を与えないように、音を立てないなどの心がけている。</p>	<p>全体的に清掃が行き届き、不快な臭いもなく清潔な環境が保たれている。空調管理や生活音にも気を配り、飾り付けや花などで季節を感じ取れる工夫もしている。歩行器やマッサージ機を活用し、機能訓練に活かす利用者も居り、それぞれ思いの場所でゆったりと過ごせる共用空間になっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>和気あいあいと過ごせるように、ソファやマッサージ機を置き、好きなところで好きなように過ごしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に従来使っていた馴染の家具や装飾品を持ち込んでもらったり、希望があれば畳敷きの部屋に工夫するなど、本人が居心地良く過ごせるように工夫している。</p>	<p>各居室の入り口には暖簾を掛け、プライバシーや見守りに配慮している。使い慣れた馴染みの家具や思い出の品々を飾っている。個別性があり、家庭の中の一室の様に安心してくつろげるプライベート空間になっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>「安全で使いやすい」を念頭に置いて、トイレや浴室などに手すりを付けている。動線には、物を置かないようにし、安全に歩行できるようにしている。</p>	/	/



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない